

平成19年度地区協会助成事業報告（北海道地区）

地区名：北海道地区（主担当大学：北海道大学）

事業名：平成19年度北海道大学附属図書館講演会

目的：大学図書館を取り巻く情勢の変化に対応し、利用者のサービスを支えるための最新の動向を多面的に紹介し、大学図書館が目指す新たな戦略を共に考える講演会とする。

日時：平成19年10月12日（金）13：30～17：00

場所：北海道大学附属図書館大会議室

講師：東北大学附属図書館総務課長 加藤 信哉 氏

テーマ：大学図書館の新たな戦略 ハイブリッド・ライブラリーの行方

プログラム：

- 13:00- 受付開始
- 13:30-13:35 開会挨拶 北海道大学附属図書館長 逸見勝亮
- 13:35-15:15 <講演と討論>
- 講演 加藤 信哉 氏
- 演題「新たなハイブリッド・ライブラリー像について」
- 指定討論者 小樽商科大学 鹿内 一郎氏
札幌学院大学 京谷 正博氏
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-16:30 <パネルディスカッション>
- コーディネーター 加藤講師
- 1)機関リポジトリの実例（北海道大学 堀越邦恵）
- 2)電子情報資源管理（ERMS・リンクリゾルバ）（北海道大学 中村陽）
- 3)図書館活用のための情報リテラシー教育支援（北海道大学 磯本善男）
- 16:30-16:55 質疑応答・フロアー討議
- 17:00 閉会

参加者：65名（北海道内各国公私立大学等図書担当職員）

経費：地区協会助成事業経費34,180円（講演会に係る講師招聘旅費）

平成19年度国立大学図書館協会地区協会助成事業報告書（東海地区）

標記のことについて次のとおり報告します。

添付資料： 東海地区デジタルレファレンス・フォーラム資料集，及びポスター（縮小版）

実施 地区名	東海地区 (主担当大学：名古屋大学)
事業名	東海地区デジタルレファレンス・フォーラム
事業目的・ 趣旨	<p>東海地区国立大学図書館協会が主催し，東海地区の公立・私立大学図書館及び公共図書館の図書館職員も参加できるフォーラムを開催し，東海地区4県（愛知・岐阜・三重・静岡）の館種を超えたレファレンス関係担当者が一同に集まり，新しいレファレンス・サービスの在り方について考え，互いに連携・協力しあうことのできる基盤を築く。</p> <p>東海地区の現状では，国立大学では2大学（名大，三重大）でパスファインダー作成に取り組んでいるほか，私立の愛知淑徳大学ではかなりの実績がある。しかし，まだ図書館全体として認知度も低い。また，インターネットを介したレファレンス・サービスは，公共図書館が積極的に実施している傾向にあり，大学図書館ではあまり積極的ではない。従って，これからの図書館サービスの重点となる広義のデジタルレファレンスをテーマに事例・課題などの情報交換を行い，連携協力を図って，レファレンス・サービスを向上させるのが趣旨である。</p>
事業概要	<p>開催日：平成20年3月7日（金） 開催場所：名古屋大学野依記念学术交流館 主催：東海地区国立大学図書館協会 内容：</p> <p>1．講演会 10：00～12：00 (1) 市川美智子（愛知医科大学医学情報センター（図書館）パブリックサービス担当） 演題： Web パスファインダーを活用した健康支援と図書館連携 (2) 鈴木 智之（国立国会図書館関西館 図書館協力課課長補佐） 演題： レファレンス事例集データベースの構築と活用</p> <p>2．レファレンス担当者交流会（昼食会） 12：10～13：45</p> <p>3．ワークショップ 13：45～16：00 (1) パスファインダーの事例紹介・活用について 事例報告 粟野 容子（名古屋大学附属図書館情報サービス課参考調査掛長） 柴田佳寿江（三重大学附属図書館情報図書館チーム情報リテラシー担当） 土屋 雅彦（静岡県立図書館調査課一般調査係長） 寺井 仁（名古屋大学附属図書館研究開発室助教） 助言： 市川美智子（愛知医科大学医学情報センター）</p> <p>(2) メールレファレンスの現状と課題 事例報告 渡辺 基尚（岐阜県図書館情報サービス課郷土担当主任） 高橋 弘子（広島大学図書館学術普及グループ主査） 松山 龍彦（国際基督教大学図書館グループ長） 助言： 鈴木 智之（国立国会図書館関西館）</p>

	<p>4. パネル展示及びデモンストレーション</p> <p>(1) パネル展示</p> <p>名古屋大学附属図書館：メールでたどるパスファインダー作成事例他 名古屋大学附属図書館研究開発室：パスファインダー協同作成支援システム 三重大学附属図書館：パスファインダーの作業プロセス他 広島大学図書館：広島大学のメールレファレンス 国際基督教大学図書館：QuestionPoint 事例集 国立国会図書館関西館：国立国会図書館の図書館協力事業 愛知県図書館：愛知県図書館レファレンス業務の紹介 岐阜県図書館：メールレファレンスの現状と課題 静岡県立中央図書館：静岡県立中央図書館のメールレファレンス</p> <p>(2) デモンストレーション</p> <p>名古屋大学附属図書館研究開発室，ナレッジサイエンス社： パスファインダー協同作成支援システム</p>								
経費	<p>執行額 304,225 円</p> <hr/> <p>内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>講師等謝金・交通費</td> <td>123,160 円</td> </tr> <tr> <td>資料印刷費（100 部）</td> <td>81,585 円</td> </tr> <tr> <td>サイン作成費（看板）</td> <td>81,000 円</td> </tr> <tr> <td>会議費</td> <td>18,480 円</td> </tr> </table>	講師等謝金・交通費	123,160 円	資料印刷費（100 部）	81,585 円	サイン作成費（看板）	81,000 円	会議費	18,480 円
講師等謝金・交通費	123,160 円								
資料印刷費（100 部）	81,585 円								
サイン作成費（看板）	81,000 円								
会議費	18,480 円								
内容のまとめ	<p>参加者数： 100 名</p> <p>内訳 大学図書館 69 名（国立 41 名，公立 6 名，私立 22 名） 公共図書館 21 名 その他 10 名</p> <p>< 講演 ></p> <p>(1) 市川美智子（愛知医科大学医学情報センター） 演題： Web パスファインダーを活用した健康支援と図書館連携 愛知医科大学図書館のミッションの一つである利用者支援を目的として，地域の 4 公共図書館と連携して「健康支援」のための地域連携パスファインダーを作成している。これは，医療・健康情報に強い地域づくり，患者参加型医療支援をめざすもので，公共図書館と連絡会を開いてパスファインダー掲載資料を選定し，医学系データベースの利用法などを共同学習し，地域図書館との共同レファレンスをめざす。この地域連携パスファインダーの特色は，一般市民や患者さんに優しくあることを心がけ，資料紹介にあたっては，Web 情報では得られない解題を記載することと，Web サイトへのリンクを控えめにして地域の蔵書では不足気味の情報を提供することである。今後の課題として OPAC や機関リポジトリでの検索を可能にすること，Web 情報の安定提供，大学図書館を含めた県内横断検索の機能アップなどがある。</p> <p>(2) 鈴木 智之（国立国会図書館関西館） 演題： レファレンス事例集データベースの構築と活用 レファレンス協同データベースについて，そのシステム概要や機能，参加館や利用登録の現状について説明があり，同データベースの活用法について，図書館員，一般利用者，研究者を対象に，レファレンス情報源，サービス改善，研修，広報等に活用できると事例も含めて提案があった。このデータベースの登録件数が少ないことが課題であり，件数を増やすことについては，会場からインセンティブを設けてはとの発言があった。</p>								

<ワークショップ>

(1) パスファインダーの事例紹介・活用について

・名古屋大学附属図書館からは、パスファインダーの現状と課題の説明があった。講義で利用することを目的に教員から依頼を受けてパスファインダーを作成しており、その数は60種類。紙媒体だけでなく、図書館Webサイト上でも公開しているため多くのアクセスがあるが、作成者数が少ないことやメンテナンスの問題等の課題もあることが紹介された。

・三重大学附属図書館からは、「パスファインダー入門講座」(学生及び学校図書館関係者対象)を開催したことがきっかけでパスファインダーを作成することになり、主にWebサイトでの提供を中心に行っていると報告があった。作成数を増やすことや効果的な活用方法という課題解決をおこなっており、新たに大学授業との連携を目指すことやレファレンス協同データベースへの登録が目標となっている。

・静岡県立中央図書館は、地域行政資料のパスファインダーなど、地域に根ざしたパスファインダー作成を行なっている。さらにより生活に密着した「暮らし情報」提供へのニーズに応えることや紙媒体での提供だけでなく、新システム導入時期にはデジタル化を進めることを計画している。

・名古屋大学附属図書館研究開発室からは、「パスファインダー協同作成支援システム」の紹介があり、ネットワーク上でのコンテンツの協同作成・管理を通して、現状のパスファインダーの課題解決にもなるシステムを構築していると報告された。

・総括として、市川美智子氏(愛知医科大学)からは、上記報告の質疑応答の内容もふまえた上で、館種を越えた連携を図ることにより、パスファインダー作成を効率的に行なうことが可能という地域連携の効果を提言した。

(2) メールレファレンスの現状と課題

・岐阜県図書館からは、メールレファレンスの受付から回答までの流れや質問内容が紹介され、実績として徐々に増えて来ていること、事実調査に続いて文献紹介が多いことや海外からも問合せがあるなどの報告があった。メールレファレンスの利点として、電話より詳細で、文書より迅速な回答ができ、ウェブサイト情報を紹介しやすい、また記録の蓄積等が容易であるが、課題としてメールレファレンス画面の作り、携帯メールからの質問への対応などが報告された。

・広島大学からは、Webレファレンスの導入についてその背景やフォームづくりの検討過程、メールレファレンスへのアクセスルートや回答時の工夫が報告された。利点として、気軽に問い合わせてもらえる(レファレンス・カウンターでは聞きづらい)、検索ツールがWebに移行しているため回答しやすい、ファイルを添付できるなどがある一方、回答する体制(語学も含めたスキルも含む)や質問内容の確認に不安が残るなどの課題もある。今後は学外者への対応や学内学生に対しては検索技術を習得できるような教育的配慮について検討する必要がある。

・国際基督教大学からは、質問と回答の管理、レファレンス質問のデータベース化、他参加館への質問回送といった機能を持つQuestionPointの概要と導入について説明があり、レファレンスのQ&AとQuestionPointを統合して公開することにより格段に質問件数が増えた。そのメリットとして、利用者が他の利用者のニーズやレファレンスとは何かを知ることができ、また外部の検索エンジンからも読むことができるなどがある。

・総括として、鈴木智之氏(国立国会図書館)から、上記事例報告に対する質疑応答の内容もふまえて、次のようにコメントがあった。メールレファレンスは、気安さ(とりあえずきいてくれる)や他のシステムとの連携性がある一方、スパムメール対策や、レファレンス内容の高度化への対応などの課題がある。QuestionPointについては導入することにより、レファレンス内容が外部から検索が可能となる。これらの共通の課題として、Google時代を反映して、Googleと同じ土俵で対応することが期待されるであろうから、内容と迅速さの面で図書館の質が問われることになり、図書館の高度化をめざす必要がある。また、どこまで回答するかについて、教育的配慮ということもあるが、知りたいと思っていることをそのまま教えることによって、利用者数を増やすということも考えてはいいのではないかと。

平成 19 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業実施報告書（九州地区）

事業名

文系研究成果の機関リポジトリ登録促進に関するワークショップの開催

事業目的・趣旨

社団法人国立大学協会九州地区支部「九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会」のもとに設置された「リポジトリ部会」(メンバーは副学長クラス)が進めている教育系・文系の学術論文集発行(電子媒体のみ・査読済論文)事業を、九州地区国立大学図書館協会が支援し、文系研究成果の機関リポジトリ搭載の促進を図るためにワークショップを開催する。

主担当大学

佐賀大学、長崎大学、九州大学

実施概要：

テーマ：「九州地区機関リポジトリ・ワークショップ：文系研究成果の情報発信に向けて」

主催：九州地区国立大学図書館協会、九州地区国立大学間の連携に係る企画委員会リポジトリ部会（国立大学協会九州地区支部）

後援：九州地区大学図書館協議会

日時：平成 20 年 2 月 21 日（木）13:00～17:00

場所：九州大学 箱崎・工学部大講義室

プログラム：(別添ポスター参照。)

開催までの準備等

平成 19 年 10 月 4 日（木）主担当大学による打ち合わせ

〃 11 月 20 日（火）主担当大学による打ち合わせ

〃 11 月 29 日（木）平成 19 年度九州地区国立大学附属図書館長・事務（部・課長）会議で協議

〃 12 月 14 日（金）主担当大学による打ち合わせ

平成 20 年 2 月 4 日（月）主担当大学による打ち合わせ

〃 2 月 21 日（木）講師等を含めた事前打ち合わせ

実施概況

参加者数：92 名

アンケート結果：(別添アンケート結果参照。)